デジ教研Meeting Special No.3 in Nagoya（４）日野様（雲州堂）
■そろばんの見直し
・基礎学力の見直し
・集中力・持久力・洞察力・情報処理能力
・暗算力は中国に抜かれている
　・アジア諸国でそろばん塾ができている
　・プリミティブな数の原理を学べるということで評価されている
■導入事例
・尼崎市「計算教育特区」
　・平成16年にスタート 翌年5校 平成21年には市内全校で導入
　・そろばん授業：9割以上の保護者が評価
　・尼崎市杭瀬小学校：当初市内平均より低学力だったが、市内の平均自体が伸びているにもかかわらず、杭瀬小学校は市内平均を上回っている

■そろばん教育の現状
・小学校の先生がそろばんを教えられない
　・珠算塾の先生が小学校にボランティアで派遣されている
　・苦手な要因
　　・指の動かし方が分かりにくい
　　・10の合成と分解が説明しにくい
・学習指導要領では、現状の「3年」から「3年＋4年」に増える
　・先生の指導力に大きな差があるのが現状→習ってないという子が多い
　・来年度から複数年度になるので、3年で実施しないと4年で問題となる
・珠算界
　・学校支援活動の限界 東京や大阪はまだしも地方では
　　・「地元でやらない」という不文律の負担
　・派遣要請の増加が予想されるが、非常に厳しい
■デジタルだからできること
・大きなそろばんが不要
・位取り記数法とそろばんの表記に対応
　・日本の１＋４のそろばんは位取りを考えやすい
・電卓に計算を入れると、その計算法がそろばんの動きで自動的に表現される
　・このときそろばんの珠の動きがちゃんとしている
・０の発見
　・空位＝０ということがわかりやすい
■今後の課題
・学校の授業機会の増大
・現場ニーズの細分化
・海外への展開
　・そろばんの普及の最大のネックは指導する教師